

5. データ品質管理のために自己評価を使う—DESAP の経験¹

(第 7 セッション: 品質評価, 2004 年 5 月 25 日)

Johanna Laiho(フィンランド統計局)・Anja Nimmergut(ドイツ統計局)

1 序

調査の品質は、一群の次元あるいは副次元に言及して普通は定義された、複雑で多面的な概念である(Biemer and Lyberg, 2003)。調査の品質を評価するためには、様々な（および一部分では補完的な）道具が使われるべきであり、それは調査がある程度までしか数量化できないという事実のためでもある。したがって、適切な品質評価を達成するために、評価方法のいくつかの形態が使われなければならない。自己評価は、統計的な処理および生産物の決定的な評価のために使われうる最重要の道具として評価される。他の評価道具（例えば監査あるいは評価報告書）と比較すると、自己評価は、体系的ではあるが統計的な生産物および処理において一部主観的な尺度を提供する一方で、比較的低予算・費用という利点をもたらす。さらに、自己評価は品質の文化の醸成という脈絡において特に有用である。なぜなら改善は、外部の統制にではなく、問題に関わる分野の専門家（調査管理者）に本来備わっている動機付けに基づくからである。

DESAP は、ESS の調査管理者に対する単純な自己評価事業のための初めての一般的な点検表である。これは、品質に関する指導グループ（LEG）による勧告第 15 号まで遡る（Eurostat, 2002）。DESAP は、欧州共同体によって資金供給された国際的事業において 2002 年 10 月から 2003 年 10 月までに開発および大規模に試行されてきた²。それは、統計の品質を評価することと改善手段を考えることの両方の目的で、調査管理者のための標準化された欧州における道具を提供する。点検表は ESS の品質基準に十分に従っており、統計データの品質に関わる主な側面をふくんでいる。点検表はマイクロデータを収集する個別統計に適用される。それは、調査管理者つまり個別調査の生産に責任を持つ専門家を主に対象として調整された道具である。

本論では、他の評価道具のグループ内における DESAP のような自己評価点検表の役割

¹ 本論文は 2004 年 5 月 24～26 日にドイツのマインツで開催された政府統計の品質と方法論に関する欧州会議で発表した。

² オーストリア統計局、フィンランド統計局、ドイツ統計局、イタリア国家統計局、イギリス国家統計局、スウェーデン統計局は、ドイツ統計局によって調整されたこの事業に貢献した。

が議論され、DESAP の開発期間中の経験およびその実施に伴う経験が説明される。

2 品質の文化、DESAP の点検表、他の品質評価道具

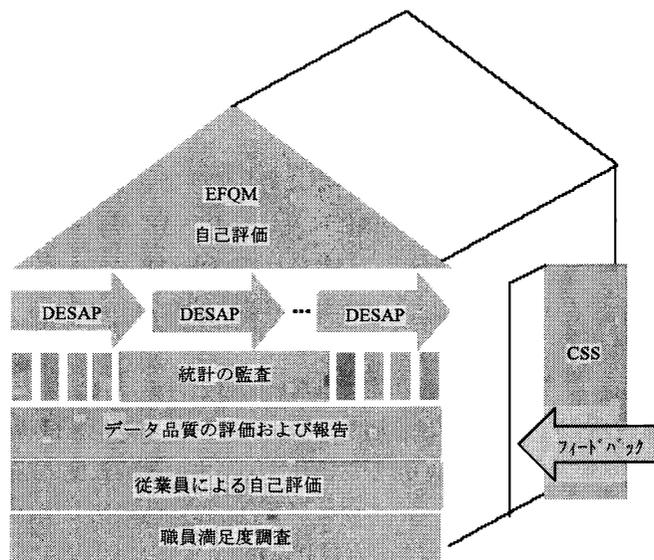
多くの組織は、実行における高い品質と改善を継続的に向上させるための挑戦に直面している (Brackstone, 1999)。次に、組織は、社会的生産基盤や資源だけでなく、継続的な発展を可能にする組織文化も必要としている。品質の文化は、従業員の作業手続だけでなく作業環境の改善を始めるための、従業員の高い動機付け、管理の変化、透明性、情報の徹底的な普及、すべての従業員の激励に関連する。現在および新しい業績、開発のアイデア、対話、強い動機付けは、組織が求める発展の過程をさらに促進させるだろう。

原則ではすべての開発作業は組織における品質の文化に基づく。新しい改善のアイデアを開発することへの参加は、信頼や尊敬や新しいアイデアを歓迎することの上に成り立つ。DESAP あるいは EFQM 自己評価のような自己評価道具は、これらのアイデアを引き起こして迎えることを目的とする。

継続的な発展への参加は作業の満足の上に成り立つ。これは、ある人の作業の重要性が自分自身と他の人々にどのように理解され、価値を与えられているかに大きく左右される。それはまた、専門家が彼/彼女らの組織におけるすべての活動の論理的な関連をどれだけうまく見ることが出来るか、そして彼/彼女ら自身の役割が発展とどのようにつながっているかに依存する。

以下の NSIs の品質評価道具は、最高管理者の自己評価、調査管理者の自己評価、統計生産の品質評価、従業員の自己評価、職員の満足調査、顧客満足度調査 (CSS) に分けることが出来る (図 1)。これらの道具は EFQM モデル、ESS 品質宣言、LEG 勧告に従っている。様々な視点から統計の生産と組織の動態を把握する際に、評価道具は異なる働きを提供する。さらに、広く一群の道具を使うことで専門家が実行の継続的改善に広範囲に従事できる。特定の組織文化にあわせるために、補完的であり (あるいは) 代替的な道具が選ばれなくてはならない。

図1 NSIにおける品質評価のための道具



EFQM 自己評価は組織を上から下へそして現在から未来へと見つめている。それは、隔たりをみつけ、広い範囲で組織全体の解決を擬態することが目的である。EFQM 自己評価は、外部顧問の助けをしばしば借りて組織の最高管理者によってなされる。理想的には、EFQM 自己評価は戦略的な計画周期とつながっている（例えば Czajka, 2004 と比較せよ）。

統計的監査は、外部監査あるいは監査チームの助けを借りて、考慮すべき特定分野へのさらに発展した洞察を与える。監査は監査人によって実施されるが、責任のある過程所有者と（あるいは）行為者によって着手された会話や改善に基づくときに、監査はもっとも有効である。

しかしながら、改善と発展は、組織自身の研究だけではなく協力者や顧客や利用者とのネットワークを横断する拡大も必要とする。顧客満足度調査は、顧客のニーズや期待を組織がどのように満たせるのかについて接近する。それは改善のアイデアを直接的あるいは間接的に起こすかもしれない。

これらの評価道具とは対照的に、DESAP 点検表は、本質的な動機付けにもとづいた品質管理の接近法を強調しており、特定の統計的調査への統一された深い洞察を提供する。これは、NSIs の核となる過程のうちの副次的過程である統計的情報の生産を構成する。DESAP は統計生産のために調整された評価道具であり、調査管理者が自分の責任下にある

調査を発展させやすくすることを目的としている。これは基本的には、調査管理者によって独立して使われうる唯一の評価道具である。

3 DESAP の目的および再構築

DESAP のねらいを設定する際に、どの作業に対して評価点検表が非常に有益な道具なのか、また他の評価道具が提供するどの機能に対して DESAP が実行できないのかについて輪郭を示すことは決定的と見なされる。したがって、DESAP が成し遂げるべきことの概略を述べるために、自己評価の長所と短所を以下にまとめた。

- 自己評価は品質の「客観的な」測定ではない。自己評価はたえずその定義によってある程度は主観的である。それは、同じ方法論的な厳密さ、例えば特定の品質指標を求めない（求めることができない）し、それは、品質の量的尺度に基づくことは希である。自己評価は特定の分野についてのより深い方法論的研究に代わることを意図していないということは明確にしておかなければならない。
- 自己評価は詳細な調査についてのすべての品質の関連する側面を記述する徹底的な品質報告ではない。自己評価は処理しやすい程度に短くするべきであり、自己評価に必要な情報は調査管理者から直接利用出来るべきである。徹底的な計算は、自己評価点検表に回答する際には求めるべきではない（求めることはできない）。しかしながら、自己評価の手段は、調査管理者が改善のアイデアを得やすくするのにより適している。
- 自己評価は、ある組織の部署が統計局で規定された手続を正しく適用しているならば妥当とする監査手続とは同様でない。定義によれば、自己評価では、監査人は一人も存在しない。特定の場合にだけ、ときどき仲裁者が有用であると考えられるが、これは一般的に DESAP 点検表には当てはまらない。監査（ISO9000 系の基準での言葉の意味によると）では、焦点は与えられた最低基準の適用（たいていは手引きや規則に記録される）についてであるが、自己評価では可能性のある改善についてであり、そこで最低基準の遵守を陽表的に尋ねることはしない。典型的には、もし自己評価の結果として調査が改善されるべきたととしても、外部による制裁はない。

言い換えれば、DESAP の脈絡では、自己評価は次の特徴によって定義される：

- それは、一部主観的ではあるが、調査の諸側面についての体系的な評価である。
- それは典型的には調査管理者自身（あるいは代替的には調査チーム）によって実施さ

れる。自己評価の基本的な質問は「改善するために私たちに何ができるのか」である。自己評価の手続は改善についての強い自己関心を前提としており、したがって外部の統制に強く依存しない。

- 評価の信頼性は（主に）客観的な測定に頼ってはいないが、良く設計され構築された点検表と同時にふさわしい質問に頼っている。
- 自己評価点検表の質問は典型的には、より形式的な評価に限定した質問（「様々な手段が機能しているか」）から、具体的な生産の品質に言及する質問（「実際にはどれくらいうまくその生産を達成できたか」）までを範囲としている。

品質についての LEG 最終報告（Eurostat, 2002）で定義されたように、この事業の主要な目的は調査管理者にとって簡易な自己評価に関する標準化されたヨーロッパの一般的な道具を提供することであった。LEG 報告書は、調査の品質のための自己評価点検表をデータ品質管理に関する非常に重要な道具として考えている。LEG によると、このような点検表を使用する自己評価過程は、実際の過程や生産で作業する人々によってなされるべき点検表の各項目にチェックを入れることから構成される（Eurostat, 2002, 15～17 頁）。この作業は品質問題の自覚を増加させ、改善の必要がある分野を明らかにするために実施される。LEG 勧告で言及されたさらなる点は、ESS で現在使用されているすべての異なる調査種類に適応可能という意味で「一般的で」あるべきであり、それは「簡易に」使えるべきであるということである。

当然の結果として、含まれるべき点検表は以下を必要とした：

- ESS の品質基準を十分に遵守していること
- 統計データの品質に関連する主要な点から構成されること
- 調査管理者にとって直接的に理解可能な形式で構成され書かれていること
- 改善手段の考慮についての有用な指針を提供すること
- 調査における可能性のある品質問題のリスクについての基本的な評価を促進させること

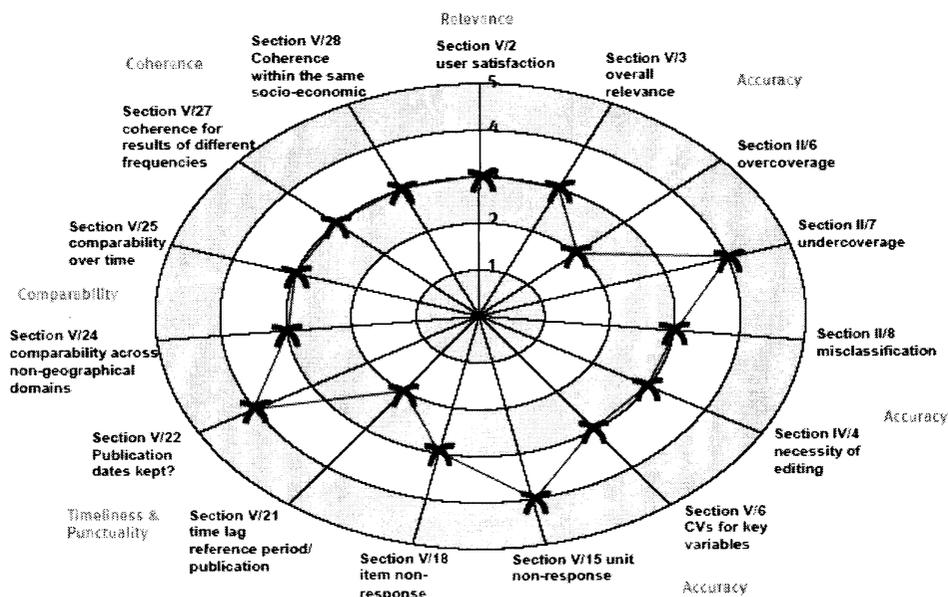
4 DESAP の開発

4.1 点検表を構築する

DESAP に関連する情報を集めるために、ESS のすべての国家統計機関（欧州外の選ばれ

果的とする順序尺度で配列される。ESS のデータ品質分類の評価に言及する質問は主要過程のⅡとⅣとⅤ（「調査設計」、「データ獲得とデータ処理」、「データ分析と結果の品質」）で見つけられるだろう。すばやい評価については追加的に圧縮された点検表が作成されてきた。DESAP の短い型は評価の質問を広範囲にふくみ、ESS の品質次元に基づいて配列されている。評価質問による結果は、各統計の品質概要を提供するクモの巣状の図（図3）で表すことが出来る。

図3 DESAP のクモの巣状の図 (cobweb diagram)



典型表が個別統計調査の水準に言及していることに注意しなければならない。これは明示的には、(調査管理者の影響がある程度制限されうる)大規模な統計事業分野、統計制度、組織的な部門あるいは統計局全体の評価のために考えられてはいなかった。点検表の要素や各質問は、調査の最大多数に適するために設計されてきた。にもかかわらず、要素は調査のすべての異なる形態（例えば世帯調査と事業所調査）について等しく関連しては（必ずしも）いない。この点検表は、特定の調査に関連する限りにおいてだけ、要素と関わる情報を得ることをねらっている。しかしながら、このねらいは、特定の調査に関して DESAP 点検表が持つ価値に評価するために試された点検表の原型と完全には一致しない。これらの試された結果に基づいて、点検表は最終的には、特定の統計にとってよりうまく調整されるために改善された。

4.2 点検表を使用するための概念を定式化する

点検表の使用のための明確な指針は DESAP と共に提供されなければならなかった。これらの指針は、チェックリストの構造だけではなく、その指針で開発され発せられなければならなかった点検リストに誰が回答しなければならないかという概念にも依存する。

既に言及し、品質に関する指導的専門グループ (LEG) の概要報告でも求められたように、点検表は調査管理者によって使用されるために設計された。この基本的な前提条件は点検表の使用をかなり容易にした。他の自己評価道具 (品質管理のための欧州基金-EFQM によって提供されたように) とは対照的に、議論や決定の過程は実施される必要はなく、質問も比較的具体的である。調査管理者による自己評価に加えて、点検表に回答する多くの異なる選択的な方法は有益であると考えられる。2つの最も興味深い違いは、全体の (あるいは全体の一部分の) 調査チームとの公開討論の開催での自己評価、もしくは自己評価の他の調査分野から招いた外部専門家か観察者に意見を聞くことである。両方の違いは改善の考えにおける生成を促進するかもしれない。

DESAP で選ばれた接近法は、自己評価のための EFQMs の質問票を基本とした接近法だけでなく、欧州行政機関 (EIPA) の共通評価枠組 (CAF) の接近法にも少し刺激を受けた (The Common Assessment Framework, 2002)。しかし、これらの方法論とは対照的に、それは、各要素について達成しうる点数による評価をねらいとしていない。このような接近法は、多くの追加的な方法論的考慮を必要とし、統計生産過程の複雑さや一般的な統計の高い多様性が所与であるとき、いくらか不適切のように見える。

EFQM の資料で言及されている手続 (EFQM, 2001 参照) は、次の理由で、とても限られた程度だけで DESAP 点検表に対して適切である :

- DESAP 調査票は一般的に EFQM 基準よりもかなり具体的である。これは、DESAP では参考にする点が 1 つの具体的な統計生産物の品質あるいは品質保証であり、生産それ自身の品質である一方で、EFQM では参考にする点が品質に対する組織の接近法による全体的な品質である、という事実による。
- この理由により、評価期間中の議論は EFQM 評価よりも DESAP の方で活発ではない (それにもかかわらず後の段階で変化を開始させる必要がある...)。しかし、評価や改善の手段についての計画を支援するために外部の専門家 (例えば数理統計学者) に意見を聞くのは有益かもしれない。

- 多くの EFQM の手続はかなりの組織的な準備を必要とする。DESAP はそうではなく、容易に実施可能である。NSIs のすべての統計調査での広範囲な使用を促進するために、DESAP の手続は軽微でなければならない。
- DESAP 評価は記録活動を求めない（あるいは少なくともほんのわずかしか求めない）だろう。調査管理者や専門家は普通、追加的な情報収集あるいは他の種類の準備なしに DESAP 点検表に記入することができる。しかしながら、言うまでもないが、準備に必要な程度は個別の NSI の組織的構造に部分的に依存する。

4.3 点検表を評価する

概念化の段階の中で開発された要素は、利用する際に理解しやすく、アクセス可能で、利用者にやさしく、さらに異なる国の版に容易に変形可能でありうる質問票へと変えられた。

質問票は、ドイツ統計局による質問票の設計のための標準的な手続を使いながら設計された。質問票が異なる NSIs で容易に使えることを確実にするために、それは PDF ファイルとして提供された。

「DESAP 原型点検表」という提案された調査票は、試験段階の前に事業協力者の間で議論された。「DESAP 原型点検表」に加えて、少しの「利用手引き」と短い紹介的文書は、DESAP の目的や、原型段階での評価において参加した調査管理者に対する試験的な検査について説明しながら、準備された。付随する質問票は、調査管理者の評価において関連する全ての点を含む点検表を検査する調査管理者への支援を意図した。「評価調査票」は、すべての点検表につながる一般的な質問票をふくむ分野だけではなく、7 つの主要なそれぞれの過程に関する分野も入れた。評価段階では、評価質問票は非常に有益な道具であることがわかった。評価研究の結果と点検表によってもたらされた改善は 2003 年 9 月に開催された事業会議において主要な点であった。

質問票は次のような統計分野をふくむ 20 の異なる統計において検査された（表 1）。

- 最近再設計された統計 対 最近再設計されていない統計
- 標本調査 対 全数調査
- 個人/世帯調査 対 事業所調査
- 行政データを使った統計

表1 DESAPの試験的点検に関わる統計一覧

協力者であるNSI	統計名	標本調査かセンサスか?	行政データの活用?	世帯調査か事業所調査か?	その統計は最近再設計されたか?
ISTAT	労働力調査	標本	いいえ	世帯	はい
ISTAT	家計調査	標本	いいえ	世帯	いいえ
ISTAT	消費者物価指数	標本	いいえ		いいえ
ISTAT	工業生産指数	標本	いいえ	事業所	いいえ
ISTAT	地域革新調査	標本	部分的に	事業所	
ONS	いくつかの調査に関する国防分析サービス局				
オーストリア統計局	オーストリア労働力調査	標本	いいえ	世帯	いいえ
オーストリア統計局	人口センサス 2001年	センサス	いいえ	個人	いいえ
オーストリア統計局	外国貿易統計 2002年	標本	部分的に	会社	いいえ
オーストリア統計局	所得税統計 2001年	センサス	はい		いいえ
フィンランド統計局	所得分布統計	標本	はい	世帯	いいえ
フィンランド統計局	家計調査	標本	はい	世帯	はい: 調査票を部分的に修正
フィンランド統計局	2つの調査についての評価調査票に関するグループ作業				部分的に, 両調査
フィンランド統計局	移民調査	標本	はい	世帯	はい
スウェーデン統計局	中等教育からの卒業	センサス	はい	事業所	部分的に*
スウェーデン統計局	民間部門の賃金・俸給構造統計	標本	はい, 部分的に	事業所	部分的に*
スウェーデン統計局	農業の経済勘定	標本	はい, 部分的に	事業所	部分的に*
スウェーデン統計局	EU 諸国との外国貿易	センサス(裾切り制限付)	はい, 部分的に	事業所	部分的に*

協力者である NSI	統計名	標本調査かセンサスか？	行政データの使用？	世帯調査か事業所調査か？	その統計は最近再設計されたか？
スウェーデン統計局	道路交通安全	標本	はい、部分的に	個人	部分的に*

* これらの統計は調査の異なる部分で改善がなされたかなされている最中である。しかしどの統計も最近では全面的には再設計されていない。

一般的に、原型の点検表に関するかなり積極的な反応があった。しかしながら、評価結果や点検表の欠点に関心をもつ全ての検査実施国における同様な傾向によると、調査票の再設計が必要であった。したがって、この評価の結果は点検表の修正に関する主要な意見から構成され、このためにその結果がここに提示される。

DESAP の原型点検表の一般的な評価部分に関して、もっとも明らかな特徴は、点検表が長すぎると考えられたことであった。点検表の記入完了にかかる時間は、この作業に貢献する努力に依存するように見えるし、点検表が記入される頻度（例えば1年に1度、あるいは5年毎）という点から考慮が必要であるけれど、点検表の長さは改善すべき重要な項目であった。

特定の統計の品質だけでなく点検表の構造のアクセス可能性という点で、点検表の適合性を考慮する評価によると、大きな欠点はなかった。点検表は明らかに、ほとんどの調査管理者に馴染みのある過程の構造を使うことで成功した。しかしながら、全ての統計がこれらの質問に等しく判断を下したわけではなく、世帯調査が一般的に点検表の関連性とそのアクセス可能性が比較的高いと考えられた。しかしながら、例えば行政データや事業調査に基づく統計によって与えられた評価は、調査のこの形態にとっての有用性を高めるために点検表が改善されるべきだったことを示した。これは、特定の部門の評価ではより明らかでさえあるし、したがって以下で議論される。

一般的な使用と関わって、点検表は、改善手段を考える際の助けになる指針を提供することよりも、潜在的な品質の問題における基本的なリスク評価を進めるのに適していると考えられた。これは、たくさんの回答の分類が改善のアイデアを生み出しやすくしうる点検表の中で提供されることを考えるとき、驚きであった。しかしながら、改善のアイデアにとっての悪い評価は、ある統計が点検表をそれ自体あまり関連するとは考えていなかったのと、どんな改善のアイデアを生み出すのにもその統計にとってあまり有用でなかったという事実のためだったのかもしれない。他方で、この結果はさらに、点検表の利用のた

めの指針が修正されその目的のために特に完成させる必要があるという目安として考えられた。

この点検表は、ほんのわずかな例外だけを持って、一般的な自己評価にとって有用であると考えられた。これらの例外者は特に、点検表がそれ自体十分に適用可能でない調査管理者であった。同じことが、内部の品質報告の脈絡での利用にあてはまる。多くの調査管理者が時間とともに比較することについて点検表はとても有効であると判断した一方で、もし自己評価が勢力範囲内で比較可能な結果になるなら、いくつかの懐疑主義は存在した。NSIs 内での資源配分の支援という点では、点検表は少しの例外だけであまり有益でないと考えられた。内部訓練の目的のための持続可能性に関しては、非常に多様な答えが存在する。にもかかわらず、DESAP グループがその事業会議で強調したように、点検表は、例えば PHARE や TACIS 諸国において新しい職員の訓練や統計的な諮問の獲得には非常に有益である。

7 つの主題となる問題領域の評価は重要な違いを明らかにした。第 I, II, IV, V, VI 区分の質問は一般的に点検表を評価した調査管理者にとって関連あると考えられた一方で、第 II 部門と特に第 III 部門の質問は同じ程度に関連しているとは考えられていなかった。DESAP グループの評価は、これは主にいくつかの調査方法や分野（例えば行政データやウェブ調査や事業所調査に基づく統計）では、点検表が自分たちの統計に適切でなかったという一般的な感触をそれぞれの調査管理者に適切にゆだねることについて十分説明されていなかった—これは第 III 部門で特に明らかになる—という事実のためであった。

この印象は、質問が評価される統計と関わる全ての点をふくむかどうか評価している結果によって確認された。この結果は、上述した統計の第 III 部門においてかなりの欠点があったことを明らかにした。この欠点は恐らく、調査管理者の統計に特別に合わせた改善のアイデアに関連した彼/彼女らへの指導の欠如の原因ともなった。彼/彼女らの統計は、上述の一般的な評価では明らかにされたが、改善のアイデアを得るために各部門の質問で使われることにつながる第 II および III 部門における低い評価に、なるほど、反映されている。したがって、より徹底的な質問の分類は、特にウェブに基づく調査や行政のデータおよび記録を使う調査に関する追加的な質問が必要なデータ収集部門では特に重要である。

しかしながら、点検表の拡大は必然的に点検表の長さを増大させ、点検表が原型段階ですでに長すぎたという批判に反しただろう（上述した一般的は評価と比較せよ）。この矛盾を解決するために点検表の順序設定が重要である。これは、調査管理者による点検表への記入時間を順序設定の改善によってさらに短くする方法でそれぞれの統計における要求を満たしやすくした。

理解可能性に対して一貫して比較的高い評価を考える際、質問は一般的に、理解するのにかかなり容易であるように思われる。しかしながら、いくつかの言語上の改善は適切であった。特に、選択肢を選ばせる設問の言葉遣いの削減は点検表の理解可能性をさらに高めた。さらに、事業会議では、調査管理者がより科学的な質問に接しやすくするために、付属の専門用語集を開発すべきであることが示唆された。

最後に、単独の部門が評価目的に適しているかどうかを査定することは何らかのかたちで、改善のアイデアを得るために各部門で使われる質問の相対評価 (curve) の典型となった。したがって、評価目的の適切性の判断は上述した適合性の質問によっても影響を受けるように見えた。しかしながら、評価目的の適切性における一般的により高い評価の数値は、点検表がすでにこの目的においてとても完成していたことを示していた。

非常に多くの調査管理者は点検表からの特定のフィードバックに関して質問され、図によるフィードバックを好んでいた。DESAP グループ内での議論は、より体系的なフィードバックを増すには、評価形態の質問のより体系的な設計が必要であることを明らかにした。例えば、質問では調整された言葉が使われ、全ての質問が同じ種類の順位付けを使い、ESS の品質基準がわかりやすくふくまれていることが確実にされるべきである。

4.4 点検表の改善

評価結果の議論は、点検表を改善するための多くの変更に導いた。(点検表の最終版で直接導入された) 単独あるいは特定の質問についての多くの変更に加えて、次の変更は特に重要であると考えられた。

- 品質評価に関する質問は明確に設計された

評価の質問についての概念は、点検表の構造を明確にするために、そして図によるフィードバックを提供する 1 つの手段を得るために、さらに開発された。全ての評価の質問は、同じ品質水準に対する同じ用語を使うという、調和されたやり方で設問の言葉が作られた。さらに、すべての品質評価の質問は 5 点の尺度を持ち、特別な色と設計を使って強調されている。(クモの巣状の図を使って) これらの質問を要約することによって、統計の品質への態度を表示する形で自己評価が終わった後に、それぞれの調査管理者にフィードバックを直接与えることが可能である。最終的に、品質基準の範囲をより広範囲にふくみやすくすべき、いくつかの追加的な質問が定式化された。改善された品質評価の質問は、点検表の最終版に導入され、DESAP チームによって議

論された。

- データ収集部門における向上および構造

点検表の評価は、ウェブに基づく調査と特に行政のデータもしくは記録を使う調査が十分満足に扱われていなかったことを示してきた。したがって、事業会議中に、多くの追加的な質問が開発され、その部門の構造が改善された。改善された結果は DESAP グループによって議論され、点検表の最終版に導入された。

- 改善された質問の順序

点検表の長さに関する批判は、改善された質問の順序が至急必要であることを示してきた。改善された質問の順序は点検表の最終版に導入された。さらに、点検表全体の色遣いや外見は、点検表を受入れやすくする、利用者によりやさしい設計を獲得するために、変更された。

- 指針の改善と用語集の収録

点検表の使用に対する指針は、結果の評価および利用に関して特に拡大される必要がある。特定の用語の定義は用語集に与えられていなければならなかった。両者は、点検表の最終版に導入された。

この事業の主要な到達可能性は点検表の最終版であった。最終的な点検表では、全ての改善が導入された。例えば、質問の約半分が（程度の差こそあれ、大幅に）再設計され、点検表の使用に対する指針は改善および拡大され、品質の態度に対する追加的なページや改善のアイデアの記録が追加された。Eurostat は、外部ウェブサイト³でこの点検表を公表し、欧州の NSIs の改善のために点検表を自国の言葉に訳すことに注意を与えた。

5 改善された DESAP

NSIs における DESAP のゆるやかな導入は今始まった。それはさらに、CARDS 事業、すなわち「データ収集と CR-0102.09.01 の CARDS2001 取得の適用におけるチェコ共和国中央統計局への支援」の中においてチェコ共和国の中央統計局で国際的な諮問のためにすでに

³ DESAP は以下で利用可能：

<http://europa.eu.int/comm/eurostat/Public/dashop/printcatalogue/DE?catalogue=Eurostat&collection=10-Eurostat%20News&product=g0-leg-20031010-DE>

使用されてきたし、「トワイニング・ライト事業 (Twinning Light Project)」, すなわち「事業番号 2002/000.601.03.03TwL のリトアニア統計制度における品質の評価と報告」の中においてリトアニア統計局ですでに試された。これらの事業に関して、自己評価点検表の導入は、組織や個別調査の有用性を検査するために自発的に参加した国の調査にとつての道具の紹介とともに、組織された。将来、利用者の第一波は他所へのさらなる支援だけでなく、評価の道具を使うことに対するもっとも適切な日常業務を確立するためのチームとしての機能も与えることができるだろう。

クロアチアでは、点検表は、統計生産物の品質を評価することに関する 1 日がかりの講習会における基本として使用された。この講習会の後に、講習会参加者は DESAP 自己評価を実施した。彼/彼女らのうち 14 人が回答した点検表の用紙を返送した。さらに半日の講習会は、点検表という道具に伴う処理に関してのいくつかのフィードバックと案内とともに自己評価の後に続いた。実際の自己評価に加えて、点検表は方法論的な諮問の中で使われてきた。それは、調査の現状を把握するためにとつても効率的で有用で情報にあふれている方法として認められた。点検表はさらに、例えば部局の統計における調査管理者といった統計生産物に責任を持つ人々にとつて調査過程を記録する新たな道具として見られてきた。

リトアニアでは、DESAP 点検表は 5 つの調査で試されてきており、DESAP の翻訳版が利用可能になる 2004 年 5 月初めまで続けられる予定である。標準的な品質の道具として点検表が導入されることは、点検表がどのように使われるのかについての訓練と一般的な合意を必要とする。したがって、研究会が「トワイニング・ライト事業」内で設定される予定である。そこでは点検表の主要な基礎が提示され、その導入に関するさらなる案内が試行の経験を下に与えられる予定である。さらにリトアニア統計局の品質開発にとつても行動的な専門家は、組織がこの評価道具をどのように使い始めるのかについての案内を提供する予定である。

試行からの経験を元に、点検表が広範囲で使用されることは自国の言語への翻訳版を必要とする。したがって、DESAP 点検表と評価資料は CARDS 事業内でクロアチア語へ翻訳されてきた。これと対応して、DESAP 点検表は現在「トワイニング・ライト事業」内でリトアニア語へ翻訳されてきた。

調査管理者の評価に加えて、DESAP 点検表は、統計生産の過程を発展する際に、以下の点で外部の顧問によって利用されうる。

- 過程の主要素の一般的で相互理解を得ること

- 統計的データの品質の欠如の原因となる重大な分野を見つけること
- 最良の実践と勧告の利用を観察すること
- 例えば過程の欠点や繰り返しや、十分な検査が生産の周期において適切にふくまれているいは使用されているかどうか、というような問題となる状況を認識すること

DESAP はさらに統計的監査の基本的な道具としても有益であろう。

自己評価はいつも、見つけられた開発のアイデアを順位付けや優先順位付けすることで終了すべきである。自己評価は調査か組織のいずれかで行動へと定式化されるべきである。現在の紙媒体あるいは PDF ファイル形式の版はこの点を十分には強調していないが、電子版は可能性としては設計されうるので、それは評価の最終段階での利用者を動機付けしうるだろう。フィードバックによると、DESAP は、標本あるいは全数調査において良く機能しているが、現在の版は例えば指数における問題となっている分野を考慮に入れていない。いずれにせよ、追加的な構成要素をふくむ現在の版を拡大することは、質問と構成要素の配列を可能にしうる電子版を必要とするだろう。

6 結論と DESAP を使う動機付け

DESAP による経験はこれまでのところ、DESAP が非常に有益な自己評価の道具であることを示してきた。調査管理者や NSIs のための質問票の主な利点は以下である。

- 継続的な発展と監視する道具として機能すること
- 改善の分野、すなわち統計的生産物や分析の分野を識別することを調査管理者に教えること。それらの分野では、現在の実践がさらに発展しうるし、調査チームの能力が高められるだろう。
- 理論的および技術的に細かいところまで行かずに、統計的データの品質や調査の方法論に関する調査管理者の気づきや関心を高めること
- 調査管理者と様々な調査の専門家の間の会話を強化および誘発すること
- 調査の現状における中心や組織を発展可能にするための発展目標を記録すること
- DESAP 評価による比較は、個別の統計生産物に責任を持つ人々によって識別された、実践的な改善のニーズにおける一般的概要を提供することができる。結果として、調

査問で識別される同様な問題は、共通のあるいは大規模な問題につなげることができ、そこでは解決策がより高い水準で追求されるべきである。

点検表の将来計画は、自動化された報告および評価の図示を可能にする電子媒体による点検表の開発をふくむ。

試行による経験と DESAP の利用の両方に基づくと、英語から母国語への翻訳は多くの国で必要かもしれない。DESAP の国内版の利用に関しては賛否がある。もし点検表が国内の言語に翻訳されるなら、明らかに、欧州の多くの国で点検表のより多くの利用者が存在するだろう。しかしながら、翻訳はいつも、原版に厳格に従わなければならないだろう。他方で、もし質問が翻訳の過程で修正されれば、これは長期的にはすこし異なった国内版の開発を導くかもしれない。これは、ESS へ貢献するすべての調査管理者にとっての調整された点検表を持つという原則と対立しうる。

参考文献

- Blanc, Michel, Radermacher, Walter and Thomas Körner (2001) *Quality and Users*. In: Eurostat (2002) *Quality in the european statistical system – The way forward*. Luxembourg, p. 45-60.
- Brackstone, Gordon (1999) *Managing Data Quality in a Statistical Agency*. in: *Survey Methodology*, Vol. 25/2, p. 139-149.
- Biemer, Paul and Lars Lyberg (2003): *Introduction to Survey Quality*. Hoboken, N.J.: Wiley, 402pp.
- The Common Assessment Framework (2002) *Improving an organisation through selfassessment*. <http://www.eipa.nl/CAF/en/CAF2002.pdf>
- Cornish, John and Templeton, Robert (2001) *Production and Presentation of Official Statistics: Strategies for Managing Quality*. Paper presented at the 2001 ISI Conference in Seoul, Seoul 2001. 15 pp.
- Czajka, Sebastian (2004) *Self-Assessments in Total Quality Management – A diagnosis tool for the organisational development at the Federal Statistical Office*. Paper presented at the European Conference on Quality and Methodology in Official Statistics (Q2004), Mainz, Germany, 24-26 May 2004.
- European Foundation of Quality Management (EFQM) (2001) *Assessing Excellence – A Practical Guide for Self-Assessment*. Brussels.
- Eurostat (2002) *Quality in the European Statistical System – The Way Forward*. Luxembourg, 154

pp.

Körner, Thomas and Anja Nimmergut (2003) *Development of a Self Assessment Programme -Final report*. 26 pp.

Radermacher, Walter and Thomas Körner (2001) Improving Process Quality – From Control to Motivation. Paper presented at the International Conference on Quality in Official Statistics 2001, Stockholm.

Statistics Canada (1998) *Statistics Canada Quality Guidelines*. Ottawa, 99 pp.

Statistics Finland (2002) *Quality Guidelines for Official Statistics*, Helsinki, 132 pp.